

# 市民公開講座

第18回 香川県小児保健協会研究会

抄 録 集

みんなでビタミン愛（EYE）まつり  
～目と目を合わせてところを育てる～



プランクトンが住む海と虹

作：りゅうせいちゃん（4歳）

日 時：2025年10月26日（日）13:10～16:00

会 場：かがわ国際会議場（サンポート高松シンボルタワー6階）

会 長：日下 隆 （香川大学医学部小児科学講座）

## 会 長 挨拶

第18回香川県小児保健協会研究会開催に際して

目と目を合わせて一日100回「好き」と言いましょう。  
それがビタミン愛(EYE)!!



香川県小児保健協会会長  
日下 隆

一か月健診をしていますと、目を全く凝視できない赤ちゃんがいます。視覚障害がある様子ではなく、待合での母親の様子を観察していると殆どスマートフォンを見ているばかりで、赤ちゃんに話しかけたり、あやしたりする様子は認めませんでした。反対にしっかり追視が可能な赤ちゃんがおり、お母さんがしっかり目を合わせて話しかけている様子が伺えます。またお母さんに兄弟の有無をお聞きしますと、殆どの赤ちゃんに兄弟がおり、いつもこどもたちが赤ちゃんとも目を合わせて遊んでいるそうです。赤ちゃんは生まれてきて様々な視覚や聴覚刺激を受けて、嗅覚や味覚が優位な脳機能から視覚優位の脳機能へと変化します。その過程では様々な神経機能を司る細胞の増加や髄鞘化、シナプスの増加そして減少といったダイナミックな脳を含む神経系の成長と発達（発育）が促され、特に脳の成長速度は生後6月頃が最大となります。その発育には自らの発育と共に、周囲からの刺激がとても重要です。つまり人間は出生後から人間と目と目を合わせて呼応して、神経系の発達を促さなければならないのです。その神経系での発達には計算や言語を制御する部分と心の部分があり、特に生後では心の発達に関係する脳の中心部の発達が優位なため、この時期に赤ちゃんの目を見ながらの心の教育が重要だと考えられます。

今回の小児保健研究会のテーマは「みんなでビタミン愛(EYE)まつり」としました。新生児期には母乳栄養を中心とした栄養と、ビタミンK、ビタミンDの補充が重要であると言われていますが、何よりもまず赤ちゃんとも目と目を合わせて、「大好き」と、一日に何回も言うことが重要だと考えるからです。これにより母親や父親の母性や父性が育ち、虐待防止に繋がる可能性もあり、双方向性の効果があります。これが「ビタミン愛(EYE)」です。またビタミンは生体が自ら作れるものではないため、常に周囲から与えられ続けなければならないのです。このため赤ちゃんへビタミン愛を与え続けると同時に、母親や父親へのサポートも重要です。

心の教育は脳科学ではその客観的指標があまりないために評価が難しいですが、人間が誕生した時から赤ちゃんはヒトの目を見るように遺伝子にその機能が情報として存在し、世代を超えてその教育がなされてきました。今回の研究会では子育ての原点として、目と目を見つめて声かけをする重要性を改めて理解し、こどもの心の教育について考えたいと思います。

# 市民公開講座（第18回香川県小児保健協会研究会）

## 【プログラム】

開催日：2025年10月26日（日）13:10～16:00

会場：かがわ国際会議場（サンポート高松シンボルタワー6階）

テーマ：みんなでビタミン愛（EYE）まつり～目と目を合わせてこころを育てる～

### 13:10-13:35 あいさつ講演

「ビタミン愛（EYE）はなくてはならないこころの栄養」

講師 日下 隆（香川県小児保健協会会長/香川大学医学部小児科学教授）

### 13:35-14:45 シンポジウム

「みんなで取り組むビタミン愛（EYE）の子育て」

座長 枝川 千鶴子（香川県立保健医療大学保健医療学部看護学科）

加藤 育子（香川大学医学部健康科学）

シンポジスト

有澤 陽子（NPO 法人子育てネットひまわり代表）

「地域で育むビタミン愛（EYE）」

鈴木 裕美（NPO 法人親の育ちサポートかがわ理事長）

「トリプルPから学ぶビタミン愛（EYE）」

朝倉 裕子（香川県里親会理事）

「血が繋がってなくてもビタミン愛（EYE）」

### 14:45-14:55 休憩

### 14:55-15:55 絵本ワークショップ

座長 谷本 公重（香川大学医学部看護学科）

鈴木 裕美（香川大学医学部衛生学）

講師 川口 かおる（株式会社 童話館編集企画室室長）

「絵本の世界にもビタミン愛（EYE）」

### 15:55-16:00 閉会のあいさつ

尾崎 貴視（香川県小児保健協会副会長/おざきこどもクリニック院長）

## シンポジウム

### 「みんなで取り組むビタミン愛（EYE）の子育て」

座 長 枝川千鶴子（香川県立保健医療大学保健医療学部看護学科）  
加藤 育子（香川大学医学部健康科学）

#### 「地域で育むビタミン愛（EYE）」

有澤 陽子（NPO 法人子育てネットひまわり代表）

#### 「トリプルPから学ぶビタミン愛（EYE）」

鈴木 裕美（NPO 法人親の育ちサポートかがわ理事長）

#### 「血がつながってなくてもビタミン愛（EYE）」

朝倉 裕子（香川県里親会理事）

## 地域で育むビタミン愛（EYE）

### — 切れ目のない子育て支援を目指して —

NP0 法人子育てネットひまわり 有澤陽子

子育てを取り巻く環境は大きく変化しています。妊娠期から始まる保活、1歳での復職を前提とした生活、地元外での子育てによる「アウェイ感」、加えてタイパ・コスパを求められる現代的なライフスタイルが、保護者に過度な負担となっています。また、情報過多や孤立感は「頼り下手」を助長し、親子双方の心身に影響を及ぼしています。

こうした状況の中、NP0 法人子育てネットひまわりでは、地域子育て支援拠点事業「ひまわりはうすところ」を軸に、「子育てサロン」や「親子サークル」など親子の交流を促進する取り組みに加え、利用者支援事業「たかまつ地域子育て支援コーディネーター」、ひとり親家庭生活支援事業「ひとり親パートナーズ」など、個別ニーズに対応する事業を展開しています。また、子ども食堂での食事提供・その他、衣類リサイクルや体験活動など当事者のニーズに引っかかる多様な「フック」を設け、家庭だけでは得られない経験や人とのつながりを広げています。

これらの場は子どもにとっては「安心して遊び、仮親と出会える場」、保護者にとっては「共感者や伴走者と出会えるセカンドホーム」となり、親子のウェルビーイングを支える役割を果たしています。さらに、地域で子育てをする時間が短くなっている現在、妊娠期からのつながりが重要であり、コーディネーターが健診に出向いたり、保健師との連携によって親子に伴走したりしています。

大切にしているのは、「不完全でもよい」と受容できる姿勢、多様な価値観を尊重する関わり、そして「がんばれ」ではなく「がんばっているね」と寄り添う視点です。地域子育て支援拠点は今や単なる遊び場や相談窓口ではなく、親子・家庭・地域社会の交わりをつくり出すハブとなっています。切れ目のない支援と日常的なつながりの積み重ねこそが、孤立を予防し、地域全体で子どもと家庭を育む力につながると考えます。

本発表では、これまでの実践と課題、そして今後の展望を共有し、参加者と共に「地域で育む子育ての可能性」を考えたいと思います。

NP0 法人子育てネットひまわり



たかまつ子ども食堂ネットワーク



ひとり親パートナーズ



ひまわりマタニティ部







## トリプル P から学ぶビタミン愛 (EYE)

NPO 法人親の育ちサポートかがわ 鈴木裕美



子育てをしていると、「自分はよい親だろうか」「周囲に迷惑をかけていないだろうか」と不安になることがあります。子育ては、自分がどのように育てられたかの影響を強く受けますが、近年はインターネットや書籍から多くの情報を得られるようになり、誰でも子育てのアイデアを探することができます。その一方で、情報が多すぎて正解が見えにくくなったり、「よい親でなければ」というプレッシャーに苦しむことも少なくありません。

このような中で大切なのは「子育ての軸」を持つことです。軸があることで他人の評価や流行に振り回されず、自分と子どもにとって本当に必要な関わりを選ぶことができます。その結果、親としての自信が育まれ、精神的なストレスが軽減し、子どもとの関係をより楽しむことができるようになります。

私がお伝えする「トリプル P (前向き子育てプログラム)」は、そのための実践的な枠組みを提供するものです。世界 30 か国以上で導入されており、子どもの問題行動に対応する方法だけでなく、その前に「親子関係を良好に築くこと」に重点を置いている点が特徴です。これは今回のテーマ「ビタミン愛」に直結します。子どもに日々どう愛情を伝え、成長を促していくのか、トリプル P はそのエッセンスを学べるプログラムです。

学びの流れは、①子育て五原則を学び、自分の子育てを振り返り目標を立てる、②子どもと良い関係をつくり新しい行動を教える、③問題行動を取り扱う、④前もって準備する（応用）という 4 段階です。とくに五原則の「現実的な期待を持つ」「親としての自分を大切にする」は重要な視点です。また 17 ある子育て技術の中では、「子どもと良質な時を過ごす」「愛情を表現する」「子どもをほめる」といった日常の温かい関わりが中心となります。これらを実践することで、子どもは安心感を得て自己肯定感を育み、親も安定した親子関係の中で満たされます。

情報過多の時代だからこそ、普遍的でシンプルな子育てのエッセンスを再確認することが求められています。トリプル P を通じて、親子の関係を安定させ、「ビタミン愛」を日常にどう取り入れていけるのかをご一緒に考えたいと思います。

トリプル P について詳しくはこちら

NPO 法人親の育ちサポートかがわ



トリプルP 前向き子育てプログラム



# 参加者募集

～子どもを育てるすべての人のために～

託児無料！

＊トリプルPとはオーストラリア発祥の  
世界25カ国以上で実施されている  
親向け参加体験型学習プログラムです。  
その効果は多くの研究で科学的に  
証明されています。

親子で幸せになれる「子育てのヒント」を学ぼう

11/1～12/20（土）9：30～11：30

5回講座＋2回電話相談

（詳細は裏面をご覧ください）

- 対象 子育て中の保護者（祖父母の方も歓迎します）
- 講師 小鹿えり(スクールソーシャルワーカー)  
鈴木裕美(小児科医)
- 参加費 6,000円(テキスト付き)
- 定員 10名
- 場所 三木町防災センター2階/三木町役場会議棟2階  
(三木町氷上310番地)

※この講座は、健やかあすなろプロジェクトの一環で開催します

お問合せ

NPO法人 親の育ちサポートかがわ  
TEL:087-891-2465(香川大学医学部衛生学 鈴木)  
E-mail:oyasapo\_kagawa@yahoo.co.jp



お申し込みは  
こちらから

毎週 1 回、合計 7 回のプログラムで、内容は下記のとおりです。

| セッション               | 内 容                                                                  | 場 所        | 時 間                | ワーク形式                    |
|---------------------|----------------------------------------------------------------------|------------|--------------------|--------------------------|
| 第 1 回<br>11/1 (土)   | 「前向きな子育て」について学び、自分の子育てを振り返りながら、具体的な目標を設定します。                         | 会議棟        | 9:30<br>～<br>11:30 | 講 義<br>グループワーク<br>ロールプレイ |
| 第 2 回<br>11/8 (土)   | 子どもと良好な関係をつくり、子どもの発達を促すために、10 のスキルを学びます。                             | 防災<br>センター | 9:30<br>～<br>11:30 |                          |
| 第 3 回<br>11/22 (土)  | 対処が難しい子どもの行動をうまく扱えるようになるために、7 つのスキルを学びます。                            | 会議棟        | 9:15<br>～<br>11:45 |                          |
| 第 4 回<br>11/29 (土)  | 対処が難しい子どもの行動が起こりやすい場面を想定し、その行動が起こらないように備えるための計画的な活動を学びます。            | 防災<br>センター | 9:30<br>～<br>11:30 |                          |
| 第 5 回<br>～<br>第 6 回 | 先のセッションで学んだスキルをご家庭でうまく活用できているかを話し合い、保護者様が自身が工夫しながら子育てしていけるようサポートします。 | 自宅         | 毎回<br>20 分<br>程度   | ご自宅での<br>電話相談            |
| 第 7 回<br>12/20 (土)  | 子どもの行動の好ましい変化について話し合い、プログラムで学んだスキルの復習を行います。                          | 防災<br>センター | 9:30<br>～<br>11:30 | 講 義<br>グループワーク<br>全体のまとめ |

第 5～6 回は個別の電話相談になります。参加者様のご都合のよい日時にファシリテーターがお電話をかけ、ご家庭でトリプル P の子育て技術を実践できるようお手伝いします。

ひと足先にプログラムに参加された方々の感想です！

~~~~~

魔の 2 歳児に振り回される日々で、何かを変えたくて受講してみました。子育てにテクニックがあるということ、問題の対応策など分かりやすい手順で学べました。

この受講を通して、私自身が様々な「気づき」をいただけたことが本当によかったです。 (30 歳代母親)

3 人の子育てをしてきて、3 人共性格も気質も違うので、どう接していいのか。上の子には通じたのに下の子には通じない等、子育てへの自信を失くしていました。でも、トリプル P の技術に従い、試みているうちに、自分たちのその時々への対応の仕方によって、おもしろいように子どもが変わってきました。

私たち親がこのような技術を知ること、子ども達もストレスなくスムーズに育ってくれるのではないかと思います。また、親としても迷いが少なくなりました。このトリプル P の技術・テクニックは一生の宝になったと思います。 (30 歳代母親)

~~~~~

NPO 法人 親の育ちサポートかがわの HP で、「トリプル P 受講者の声」や「トリプル P とは」を読むと参考になりますのでどうぞ！





# 血がつながってなくても ビタミン愛（EYE）!!

～里親から想うこと～

朝倉 裕子（香川県里親会理事）

## はじめに

「里親」ってご存じですか？

もちろん血がつながってない親子です

今回、このテーマをいただき、「確かに・・・。」と改めて思いました  
そんな感覚で生活していますので、長年ホストファミリーや里親など、  
色々な形の家族の中で、「**血縁**」に全くとらわれない自分にふと気づか  
された感じでした

## 自己紹介

さぬき市長尾在住

朝倉 裕子（あさくら ゆうこ）

施設福祉士・衛生管理者・看護師・専門里親・養育里親（平成23年5月登録）・保護司

仕事は社会福祉法人の理事（主に法人人事の管理や外国人職員の生活サポート、職員の健診管理、地域の福祉的支援等）

地元婦人団体の会長しており、今年は瀬戸芸でボランティアを楽しむ(\*^-^\*)

夏休みに児童クラブに通うこども達に250食余りのカレーを提供♪

防災訓練では炊き出しを担当し、ポトフや豚汁、わかめご飯を提供♪

また、保護司として犯罪を犯してしまった方へ更生に向けたサポート活動を継続



「さぬきお結び定食」



児童クラスカレー作り



## 主な所属団体

香川県里親会理事・副会長  
さぬき市子ども・子育て会議委員  
さぬき市学校運営協議会委員  
さぬき市まち・ひと・しごと創生有識者会議委員  
さぬき市男女共同参画推進協議会委員  
長尾地区地域福祉活動計画策定委員  
香川県地域日本語教育総合調整会議委員  
香川県施設福祉士理事

他

里親としては 14年

今まで里子として迎えた子どもは13人になりました

＊現在13人目の女の子（7歳）と薬剤師の主人の3人暮らし

＊里親の前にはホストファミリーとして7カ国の留学生を受け入れてました

5人家族といっても

私と主人      留学生      里子2人（別家庭なので血縁なし）

みんな誰一人 血がつながってなくても、普通の家族同様、楽しく  
過ごせてました(\*^-^\*)

## 社会的養護の現状

生れる子どもの数は減っても、社会的養護が必要な子どもの数は減っていません

子どもを取り巻く、「家族」「地域」の力が弱くなってきています

昔は親・祖父母・兄弟など、大家族の中で助け合いながら子育てができていましたが

今は、家族の単位が小さくなり、助け合いやSOSが届きにくい孤立しがちな子育ての環境になりつつあります

子育ては家族の中だけでは、地域や社会全体で支える時代です

その担い手のひとつが 私たち「里親」です

## 児童相談所における児童虐待対応件数（香川）

2015年（10年前）760件 ➡ 2024年 1316件 （10年で倍近くに増加!!）

虐待は ①心理的虐待 ②身体的虐待 ③ネグレクト ①と②で 82%

少子化でありながら、こどもが育つ環境が時代と共に「良くなっている」とは言えない社会になっている

こどもが安心して育つ環境は、大人が整えなくてはならない

保護司をしていて、色々な犯罪の背景にその対象者の生き立ちが影響しているケースも多いようです  
こども時代を過ごした環境や受けた愛情の深さが一人の人間の一生を左右するようにも思えます

## 社会的養護の受け皿

### 施設

児童養護施設  
(1歳～18歳未満)  
＊状況にて20歳まで

乳児院  
(0歳)  
＊状況にて就学前まで

グループホーム  
(民間住宅で4～6人)

### 家庭と同様の養育環境

養子縁組 (特別養子縁組含む)

ファミリーホーム  
(養育者の住宅で5～6人)

### 里親

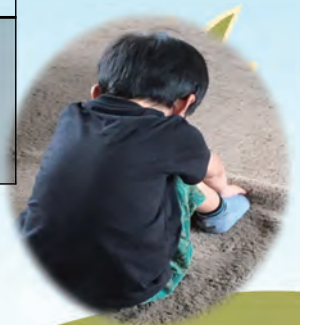
地域の中で、家族として養育する  
一家庭で4人まで



## 全国で社会的養護が必要な子どもの数 R6年3月

| 乳児院    | 児童養護施設等 | ファミリーホーム | 里親     | 養子縁組<br>里親 |
|--------|---------|----------|--------|------------|
| 2,316人 | 29,870人 | 1,810人   | 5,235人 | 353人       |

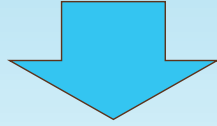
国は今後、きめ細やかな家庭養育を推進していきます





## 日本の里親制度

社会的養育が必要な子どもを「児童養護施設や乳児院で預かる」集団養育から



心に傷を負った子どもを

ごく普通の「一般家庭」で受け入れる（里親）

一人ひとりにじっくり関われる  
信頼できる大人が いつも近くで見守りできる  
安心して暮らせる「家庭」を体験できる

\*子どもを育てたい大人の制度ではなく、家族の愛情を必要としている「子どもの制度」  
「子どもの気持ちや意見をしっかり聞ける環境があること」が大切になります

## 過去の経験から学んだこと

思春期となり、自分の生い立ちと周りとの違いに苛立ち、目の前の里親に対して怒りをぶつけました

彼の言葉に 「なんで育てんのに産んだんや」  
「俺なんか生れんで良かったんや」  
「子どもを簡単に捨てる親なんて」

実親に対して悔しい想いは、心のモヤモヤとなり、自分を見失いそうになった時期・・・  
本人が一番しんどかったと思います

成長過程の中で、心に秘めていた辛い過去を、一度は吐き出す事も必要でした  
心が成長し、どんな親でも親として受け入れられるように切り替えられた時、  
里親に対しても、素直に感謝の気持ちを伝えてくれるようになりました

何気ない日常で積み重ねてきた愛情があったからこそ、遠慮なく言えた言葉でした  
「心のまま 爆発できて良かったね!!」 今となってはそう思います

里親としても一時は落胆し、今までの養育を回想し「裏切られた？」気持ちになりましたが、  
時間が全て解決してくれました

今は県外で大学生

ファミリーホームの支援を受けて、希望通りの進学、大好きなバスケットボールにも打ち込  
めています

里親・里子の関係でなくなっても、「実家」の機能を残せるのが里親です  
今でも実家のように、お菓子や食べ物の仕送りをすると「ありがとう！」とメールが…  
その文面にさりげなく「お母さん」の文字を見つけると嬉しくなります

人生の伴走者として、里子の結婚・子育てまでサポートできれば理想です

難しい子育てになる場合もあります 悩みや喜びをみんなで分かち合い、充電できる時間です



里母の会

同じ想いの仲間たちと…  
養育の相談が出来る場



## おわりに

### ～ 子どもの目の輝きが 私の原動力 ～

愛情は目から溢れだし、手と優しい言葉を添えて子どもに伝わります

血のつながりのない家族だけど「心の通うあたたかな家庭」は、みんなが居心地が良く、それぞれの心の中にしっかりと愛情の種が育っているように感じます

大人になる前、理解できない生い立ち、心で受け留めきれない感情を、信頼できる大人に本音を吐き出す事も大切！ それが一歩踏み出すきっかけになる事を学べた1件でもありました

今、「ただいまあ～」とかわいい声で毎日にここへ帰ってくる女の子がいます

「きょう、こんなことがあったよお～」と目を輝かせてお話する姿は、どこか自信に溢れ力強さを感じられます 「きょうもがんばったね」「すごいね」「ありがとう」の言葉のシャワーは心の栄養！

「安心して暮らせる」って気持ちの上でもとても大切ですね・・・ そんな日常に感謝です

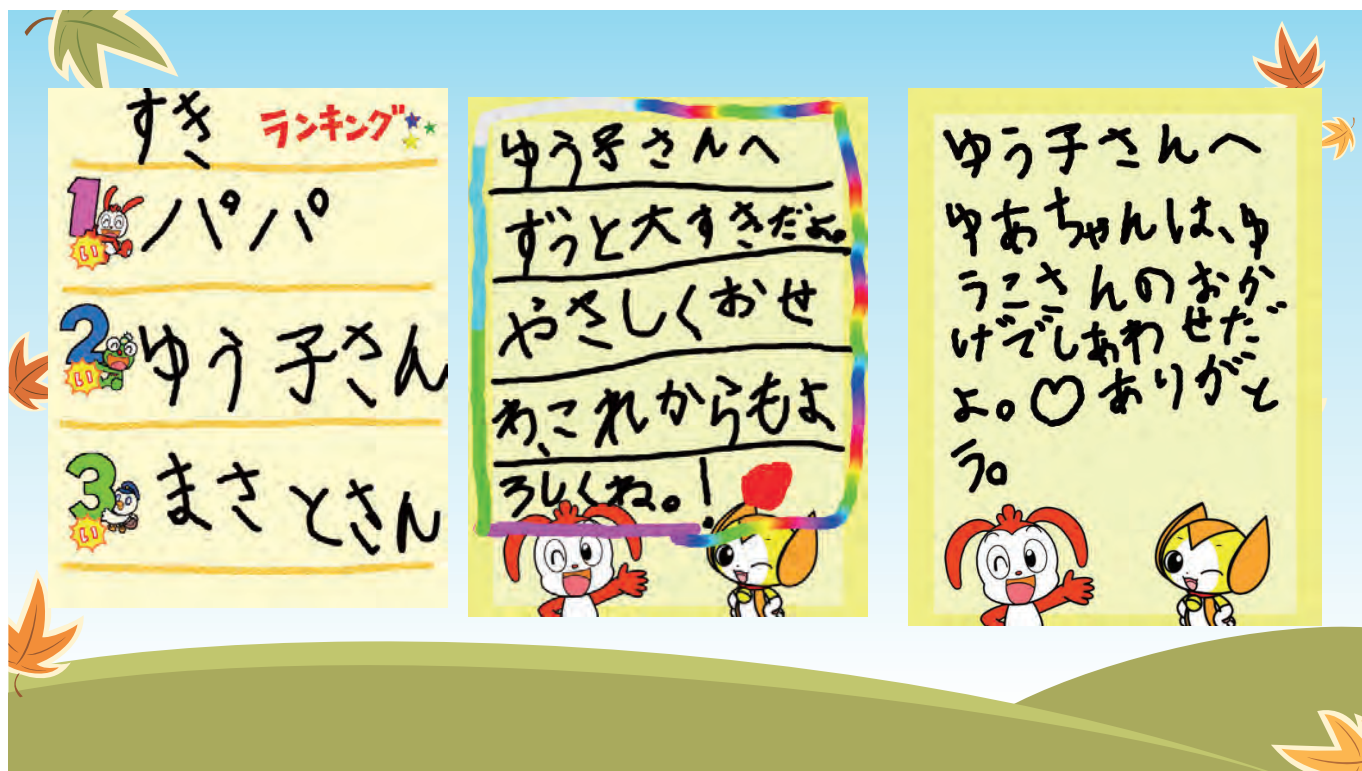
たくさん子ども達とのご縁に感謝!!

子どもは社会の  
たからもの♡

みんなで見守っ  
ていきましょう

たくさんの愛情で  
ていねいに育てる♡





ご清聴ありがとうございました





## 絵本ワークショップ

### 「絵本の世界にもビタミン愛（EYE）」

座 長      谷本   公重   （香川大学医学部看護学科）  
             鈴木   裕美   （香川大学医学部衛生学）

演 者      川口   かおる   （株式会社 童話館編集企画室室長）

## 絵本の世界にもビタミン愛（EYE）

こどもの本の童話館グループ  
株式会社童話館  
株式会社童話館出版  
編集企画室室長 川口かおる

「絵本」と聞いて、皆さんはどんなイメージをお持ちでしょうか？さいわいここ数十年、乳幼児への読み聞かせ、ブックスタート、朝読といった形で、さまざまな取り組みが行われるようになりました。親と子の愛着形成において有効であることもよく耳にします。

しかしながら、絵本のもつ本来の魅力や、子どもたちの育ちになぜ、どうして必要なのかといった根本的なところまではまだまだ理解が深まっていないようです。さらに「どんな絵本を」「どんなふうに」「いつまで」読んであげればいいのかといったちょっとした疑問をお持ちの方もいらっしゃるでしょう。そして、絵本は子どもたちにはもちろん、大人の私たちにもたくさんの気づきと励ましを与えてくれることにも、まだ多くの方は気づいていないようです。

そう、「絵本の世界にもビタミン愛（EYE）」！絵本は、どんな子どもにも、どんな大人にも、寄り添い、人生を切りひらくきっかけになる、そんな力を持っています。

そこで今回は、絵本の魅力や効用について、皆さんからの質問や意見にもお答えしながら一緒に考えてみたいと思います。出版社でこどもの本を作っている立場だからこそ見えることもあります。書店ではなかなか目にしない絵本の紹介もたっぷり。母としてはもちろん、こどもの本の専門店として45年のあいだに培ってきた経験と知識を余すところなく披露いたします。親御さんたちはもちろん、子どもにかかわるすべての方に聞いていただければさいわいです。

\*著書に『中学生からの絵本のトリセツ』（岩波書店）、『こころを満たす からだを満たす 親と子のじかん 育ちのころを楽しむために』（童話館出版）。当日、サイン入り著書の販売あり。

## 謝 辞

第 18 回香川県小児保健協会研究会の開催にあたり、下記の企業様から多大なるご支援とご協力をいただきました。心より感謝申し上げます。

第 18 回香川県小児保健協会研究会 会長 日下 隆

### 【広告掲載企業】

JCR ファーマ株式会社

ノボ ノルディスク ファーマ株式会社

(五十音順)

## 第 18 回 香川県小児保健協会研究会

実行委員 石井 有美子（香川大学医学部看護学科）  
枝川 千鶴子（香川県立保健医療大学保健医療学部看護学科）  
岡田 仁（香川県立保健医療大学保健医療学部臨床検査学科）  
鈴木 裕美（香川大学医学部衛生学）  
谷本 公重（香川大学大学院医学系研究科）  
徳地 暢子（香川大学医学部看護学科）  
松本 裕子（香川県立保健医療大学保健医療学部看護学科）  
（五十音順）

抄録作成委員 石井 有美子（香川大学医学部看護学科）  
谷本 公重（香川大学大学院医学系研究科）  
徳地 暢子（香川大学医学部看護学科）  
（五十音順）

事務担当 山下 美智子（香川大学医学部小児科学講座）

主 催 香川県小児保健協会  
事務局 香川大学医学部小児科学講座  
〒761-0701 香川県木田郡三木町池戸 1750-1  
TEL：087-898-5111（内線 2693） FAX：087-891-2172  
E-mail：kodomo-m@kagawa-u.ac.jp  
研究会 HP：http://www.med.kagawa-u.ac.jp/~kodomoho/

後 援 日本小児保健協会



## 編集後記

第18回香川県小児保健協会研究会は、市民公開講座として「みんなでビタミン愛(EYE)まつり～目と目を合わせてこころを育てる～」をテーマに開催いたします。今回は初めての試みとして、一般の皆さまにもご参加いただき、子どもの健やかな成長を支える「ビタミン愛(EYE)」について、さまざまな立場から学び合う場となります。

あいさつ講演では、「ビタミン愛(EYE)はなくてはならないこころの栄養」と題し、子どもにとって大切な「目と目を合わせること」の意味を深く考える機会が提供されます。続くシンポジウムでは、地域での子育て支援、親の学び、里親としての実践といった多様な視点から「ビタミン愛(EYE)」が語られ、会場全体が温かい思いで満たされることでしょう。さらに、絵本の世界を通じて心の栄養を育むワークショップも行われ、大人も子どもも共に楽しみながら「ビタミン愛(EYE)」を実感できる時間になると期待されます。

子どもたちの笑顔と健やかな成長のために、私たち大人ができることは、目と目を合わせ、心を寄せ合う小さな積み重ねです。本研究会が、その一歩を共に考え、実践につなげるきっかけとなることを願っております。

最後に、本研究会の開催にあたり、ご参加くださる皆さま、そしてご協力いただいた関係者の皆さまに心より感謝申し上げます。

2025年9月25日

香川県小児保健協会研究会

抄録作成委員 谷本 公重

(香川大学大学院医学系研究科)

医薬品を通して人々の健康に貢献するために

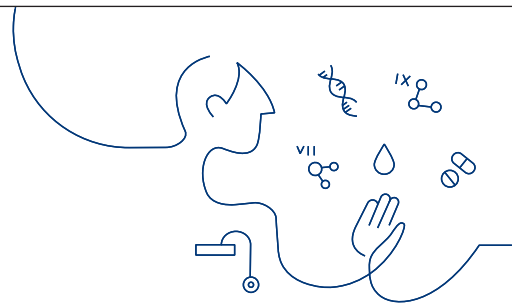
JCRは、長年にわたって、希少疾病用医薬品の開発に取り組んでいます。治療薬を待ち望む多くの患者の皆さんと家族の思いに一日も早く応えるため、独自のバイオ技術、細胞治療・再生医療技術を活かした付加価値の高い新薬の開発を進めています。



希少疾病に、  
JCRのできること。

JCRの医薬品を、  
世界中の患者の皆さんへ。





## 糖尿病で培った 知識や経験を基に、 変革を推進し 深刻な慢性疾患を克服する

ノボ ノルディスクは、より多くの患者さんの、  
より良い人生の実現のため、社会に付加価値を与える  
持続可能な企業であることを目指しています。

ノボ ノルディスク ファーマ株式会社

〒100-0005 東京都千代田区丸の内2-1-1  
[www.novonordisk.co.jp](http://www.novonordisk.co.jp)

JP24NNG00028 (2024年12月作成)





積み木、つみ、つみ

ももちゃん（3歳）